

キャンパス NOW

トップインタビュー

大阪国際大学 宮本郁夫学長

昨年4月に学長に就任して掲げた教職員の行動指針は「すべての汗は学生のために」。大阪国際大学の宮本郁夫学長はパナソニックの役員から転身した元ビジネスマンらしく、時代の先読みと人材育成に力を注ぐ。今春、グローバル社会で活躍できる若者を養成する目的で、国際教養学部を新設。魅力ある大学を実現するため、キャンパス整備などのインフラ面の充実にも取り組んでいる。【中川博史】



森園道子撮影

です。英語が苦手でも構いません。まずは体験し、何かを発見することです。必ず視野が広がります。二つ目は、スポーツ、文化系とちらでもいいので、クラブ

って仕事をする、という夢がなかった大きな要因だったと思っています。三つ目は、地域貢献です。大学はさまざまな自治体や団体と連携しているので、イベン

増やしているところです。私がビジネスマンだった時の人脈も、フル活用しています。

——一方で、地域とのつながりを重視しています。◆私たちの大学は地域の中に存在しています。規模は大きくありませんが、逆に、地元の高校生が入学して自転車通えます。地域から大学に来てもらい、地

みやもと・いくお 1947年、香川県出身。香川大学卒業後、松下電器産業（現パナソニック）入社。アジア大洋州本部長、常務などを歴任し2012年、大阪国際大学・同大学短期大学部副学長に就任。昨年4月から現職。

◆何と言っても重要なのは就職です。昨年度の実績では、就職決定率は95%でしたが、100%に持っていきたい。それには、企業が求める人材を育てなければなりません。これからは学生のために多様なプログラムを用意していきます。私自身も、今まで以上に学生と直接話をする機会を増やし、機を飛ばしていきたいと思っています。

内外に通じた人物を

——建学の精神を「全人教育」としています。

◆大学はよく「最高学府」と言われますが、学問や研究だけではなく、社会の中で役に立つ人間を育てなければなりません。責務と言ってもいいでしょう。他人のことを思いやり、いたわることができる。あるいは困難に立ち向かえる。そういう学生を作りたいという思いです。今年の入学式の式辞では「人間を人間らしく育てる」という表現で、新入生に伝えました。

——学生には、どのような大学生活を期待しているのでしょうか。

◆まず、早い時期に最低でも一度は海外に行くこと

大阪国際大学 1988年開学。前身は29年設立の帝国高等女学校。2002年に大阪国際女子大学（1965年開学）と統合。グローバルビジネス、人間科学、国際教養の3学部からなる。所在地は大阪府守口市藤田町6の21の57。06・6902・0791。学校法人大阪国際学園が運営し、グループに大阪国際大学短期大学部、大阪国際滝井、同大和田の両高校、同大和田中学、同大和田幼稚園がある。

トやボランティアに積極的に参加してほしいですね。

——4月に国際教養学部ができました。

◆大学名に「国際」とうたっていますが、私から見れば、まだまだ発展の余地がある教育内容でした。学生、教職員ともに、海外での経験も多いとは言えなかった。国際教養学部では、徹底的に語学力を身に付け、全員、留学や海外研修に参加します。私たちは「リック・サウス（南）戦略」と呼んでいます。大学の特色としてアジア、特に東南アジアで通用する人材を育てようと考えているので、海外協定校や研修できる企業などの数もどんどん

域に就職する。中小企業であっても、継続して勤め、課長になり、部長になり、リーダーシップを発揮できる人間になってもらいたい。地元の自治体と協定やパートナーシップを結んでいるのも、地域を大事にしようという考えに基づいています。

——キャンパスの整備が進んでいます。

◆今年4月、守口キャンパスに地上6階、地下1階の新1号館が完成しました。コンピュータ演習室や多目的セミナールーム、ラウンジやトレーニングルームなどを備えています。イタリアンカフェも入っています。オープンキャンパ